

# 千葉



千葉総局

〒260-0013  
千葉市中央区中央  
4-17-3

☎ 043-225-2171  
FAX 043-226-1782  
chiba@sankai.co.jp

広告 043-202-8600

購読申し込み  
0120-70-3034

配達・集金  
0120-34-4646

紙面・記事  
03-3275-8864

Web

<http://www.sankai.com/region/region.html>

## あすのこよみ

(6日)

旧暦9月14日  
(仏滅)



月齢	13.2
日出	6:03
日入	16:37
月出	16:17
月入	4:54
満潮	4:23
	16:04
干潮	10:13
	22:35
大潮	(千葉)

# 本番さながら稽古に熱

梨の収穫期が終わった選果場。秋の陽光を浴び、劇団旗が揺れる。劇団員が本番さながらに熱演。市川市在住の演出家、吉原広さん(65)の声が飛ぶ。

「そこは、血の気がすうつと流れていく感じで、よろめきなから倒れる」

地元住民が「頑張ってる」と声をかけて、柿を差し入れる。「ありがとうございます」。稽古にも一段と熱が入る。

劇団は名倉ゆみこさん(46)が平成24年、元気なシニア世代に呼びかけ、結成した。団員は60、70代の21人。昨年4月、「飢餓海峡」(水上勉・作)を旗揚げ公演。約800人の市民が来場し、熱い声援を送った。

「前回の作品は男性中心だった。今回は女性に活躍してもらえ作品を選んだ。小気味よい

せりふで、女の世界がしっくり表現されています」と、吉原さんは語る。

昭和40年代、東京・上野の割

パワー炸裂。第2回本公演に臨むシニア劇団「波瀾ばんばん座」の団員たち—市川市大野 (塩塚保撮影)



旅館が舞台。個性豊かな4人姉妹が、周辺の男たちを巻き込んで、てんやわんやの騒ぎを起こす。シニア劇団ならではの情感あふれる演技が見どころだ。

次女、タマヨ役の川上花枝さん(64)「パート勤務」は「せりふを覚えるのが大変。脳との戦いでした。自分とは逆のあわてもので、おせっかいな役を演じるのは楽しい。同じ時代を生きた団員と交流し、学ぶところも多いです」と笑顔で語る。

上山恵司さん(62)「飲食業」は「若い頃、演劇をやっていた。(劇団を紹介する)新聞記事を読んで血が騒ぎ、昨年入団した。本番が近づき、怖さをひしひしと感じています」と話す。

公演は13日(午後2、6時)、14日(午前11時、午後3時)の計4回。前売り2千円、当日2500円。問い合わせは☎090・6707・4800(名倉代表)。

## 市川のシニア劇団 13、14日に公演

市川市を拠点とするシニア劇団「波瀾ばんばん座」が13、14の両日、市文化会館(同市大和田)で第2回本公演を行う。市ゆかりの脚本家、水木洋子さんの人情喜劇「甘柿しぶ柿つるし柿」上演に向け、梨選果場(同市大野)で笑顔いっぱい稽古に励んでいる。